

訳者あとがき

2018年のベトナム経済は、実質経済成長率が7%台と高い値を示した。他方、アジアの雄である中国は、同時期の実質経済成長率が6%台で、成長に減速傾向が見えており、ベトナムはアジアの中でも堅調な成長を続けていると評価してもよいであろう。

経済発展を体現するベトナムの主要都市を見ると、首都ハノイと南部の経済都市ホーチミン市(旧サイゴン)という北と南の従来の大都市圏だけではなく、近年は中部のダナンが、世界遺産のホイアンに近く、優美な海に面することもあって多くの観光客を呼んでおり、2017年にはAPECの首脳会議が開催されるなど、その発展が注目されている。ハノイ、ホーチミンシティについても、地下鉄路線の開通が計画され、高所得層向けのマンションも目立つようになり、経済成長による変化を肌で感じることができる。また、ハノイでは、その発展を体現してきた旧市街地に加え、タイ湖周辺等、発展を牽引するエリアも増えつつある。

他方、国内の地域間経済格差(都市農村間格差、都市内格差、農村内格差)、高齢化、医療サービスの供給不足、深刻な自然災害被害、などベトナムの社会、経済に負の影響をもたらす新しい問題も顕在化してきている。

ベトナム統計年鑑は、こうした近年の変化著しいベトナムの社会、経済について、ベトナムの中央統計局に該当する統計総局(General Statistics Office)が発表したデータを通して、統一的に把握することを可能にする重要資料である。統計年鑑は毎年出版されているが、その内容はベトナムの社会経済の変化に伴い、大きく変化してきた。例えば、ドイモイ政策が始まってまだ日が浅い90年代の統計年鑑は、農林漁業の統計が充実していたが、それ以外の情報は比較的少なかった。2000年代に入ると工業部門や投資、企業などの統計が充実してくるが、保健医療や文化、生活水準に関する統計はまだ限定的であった。しかし、近年の統計年鑑は、市場経済化、工業化、社会の諸問題を反映し、工業統計、サービス業統計、社会文化関連統計など多様な側面の情報が充実している。さらには、従来の統計用語解説のほか、各種統計の背景にあるその年の状況分析、要約が示されるようになり、読者がベトナムの現状を把握するのに有益である。

今回出版される『ベトナム統計年鑑2017年版』では、用語解説部分にも、これまでの統計年鑑と異なり大きく手が加えられ、統計総局による統計改善への腐心が垣間見られる。また国有企業改革の加速化の動きもあるためなのか、企業統計が比較的充実しており、さらには経済発展に伴う歪みが反映されやすい「保健医療・文化・スポーツ・生活水準・社会秩序・安全・司法及び環境」の統計では、引き続き自然災害や司法(犯罪)、交通事故、廃棄物処理に関するものが掲載され、ベトナムで2017年現在どのような社会問題が顕在化していたか理解できよう。

和訳にあたっては、用語の選択等、細心の注意を払っているが、統計年鑑の越語、英語原文において明らかな誤植と判断され、読者の混乱を招く可能性がある箇所、もしくは統計概念や表の解釈に注意が必要な箇所には、適宜「訳注」を加えている。本日本語版統計年鑑が、ベトナムに関心をもつ多くの方々の一助になることを願ってやまない。

最後に本日本語版の出版において、ビスタ・ピーエスの酒井洋昌氏には出版に至るまで大変お世話になった。ここに謝意を表したい。

2019年9月

高橋 壘

グエン ティ タン トウイ